



るもい風土資産カード

こなけ 旧小納家住宅 (羽幌町焼尻郷土館)

小納家の栄華を伝える
和洋複合の木造住宅

明治33年(1900年)に建てられ、道指定有形文化財に指定されている旧小納家は羽幌町の沖合に浮かぶ焼尻島のフェリーターミナルに近い小高い丘の上にあり、焼尻郷土館として開放されています。洋風建築を取り入れたモダンな木造建築で、木造平屋一部2階建て、建物の面積は土蔵を含め1,569平方メートルという存在感のある建物です。

小納家は石川県塩屋村から焼尻に渡り、ニシン漁のほか、呉服業や雑貨商を営み、郵便・電信局の許可も受けていました。建物は二代目宗吉氏が建てたもので、ヒノキ材や黒檀をふんだんに使い、屋根の垂鉛鉄板はイギリスから輸入したものと伝えられています。水平下見坂や上げ下げ窓、六角の郵便局の入り口は洋風建築を取り入れたもので、正面の1階は和風店舗、2階が洋風という造り。天井の梁は基盤ができるほどの太さの木材が使用されるなど、栄華を極めた時代を思い起こさせるものです。

郷土館として開館したのは羽幌町が建物の修復を行った昭和52年(1977年)で、同町の文化財に指定された後、昭和54年(1979年)に北海道教育委員会によって有形文化財に指定されました。内部はほぼ当時のまま保存され、小納家の生活用具や調度品、郵便・電信の珍しい通信機器も展示され、焼尻島を代表する観光スポットとなっています。

見どころ

羽幌港から焼尻島行きのフェリーに乗船し、焼尻港に近づくと、小高い丘の上に矛状の屋根飾りを付けた大きな寄棟屋根が見えてきます。上陸後は、明治時代にタイムスリップするような感覚で、旧小納家の資料館を見学しましょう。

ポイント

街路に面した母屋は洋風の2階建てで、郵便局や主玄関、店舗、電信局、客用宿泊室があり、局員宿泊室や居間、仏間へと続きます。天井の広々とした空間は初期洋風建築を知る上で興味深く、土蔵の漆喰細工や錠の装飾も豪華です。

五感で感じる！ 風土資産の魅力

聴く 触る 味わう 嗅ぐ 知る

触る

見事な洋風木造建築の中には、小納家で使用されていた生活用具や調度品、郵便・電信の珍しい通信機器などが展示されています。当時の生活に触れることができる、貴重な文化財となっています。

知る

中央の表玄関をくぐると仏壇まで、3室の座敷と上段が一直線に続いています。奥の間には座敷構えを備え、砂利敷き土間の土縁(板縁と土間で構成する縁側)を廻し、接客用の格式空間を演出しています。「のざや」で結ばれた土蔵の漆喰細工や錠の装飾も必見です。

■基本情報 (R3. 5)

文化財指定：北海道指定有形文化財
 指定年月日：昭和54年11月27日
 住 所：苫前郡羽幌町大字焼尻字東浜183番地
 T E L：01648-2-3392(開館期間中)
 0164-62-1178(羽幌町教育委員会)
 開館期間：5月1日～9月30日
 開館時間：9:00～16:00
 休 館 日：期間中無休
 入 館 料：大人 330円 高校生以下無料
 15名以上の団体は1名 260円